

①

留学を決めたのは、日本と全く違う環境に身をおいて1年間くらい、人生の見聞を深めたいという好奇心と第三言語を習得して強めたいという思いだった。

フランスに決めたのは、芸術、ファッション、料理の国であると同時に、農業大国であり、言語、文化、歴史とでも懂っていたからだ。

そして私は、オートサヴォワのクルーズに住んでいるCAMPIONE家にホームステイすることになった。

母のイザベルは料理高校の先生、父のジャンポールは5年前に車の事故で体が不自由だった。同級生のエマは明るく優しい女の子の3人が家族の一員となった。2人の兄と姉は離れて暮らしている。

私が通ったリセ(高校)ジャンポールは生徒千人位で、その内留学生は30人くらいいた。

日本と全く異なる事は高校は、制服が無く、ゼッス、メイク、髪染めなどもOKで、担任の先生が生徒1人1人に関わる事はなく日本の大学の様な感じだ。

感じたのは、授業が全てフランス語なので、何を言っているか分からず孤独感を感じたこと。みんなといたのに1人である様な感じだった。

大変だったのは、母のイザベルの高校で「日本についてプレゼン」をしてくれと前日に言われたこと。

時間も無くて、フランス語力も無かったけど、日本について少しでも興味を持つべく聞くにほしいから、寝る時間を削って、分かり易くフランス語でまとめた。

プレゼンを終えた後は、みんな優しく、良かったよ、ありがとうってほめてもらってすごく嬉しかった。

お着付けをしたし、ジャンポールのレストランの飾り付けを担当した。その度思うのは、フランス人の授業への積極性は尊敬とあだし、見習うべきだ。毎回質問せめてあった。

その中で、「日本の家族と離れてフランスに来て寂しくないの?」という質問があった。「寂しい」と答えた。

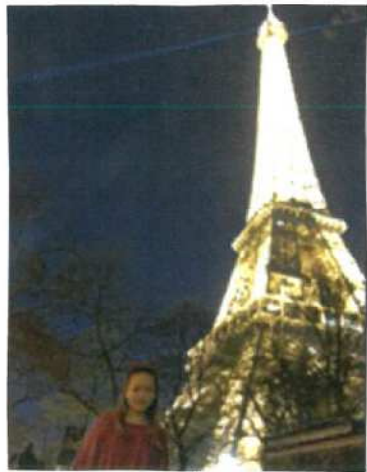
日本にいた時は、あたり前だと感じていた家族だがフランスに来て、本物の家族と暮らしていて、どこか守られていて、どこか幸せだったから、私の事を本当の意味で大切に家族が今は大好きだ。感謝にもしきらない事もこの留学で学んだことだ。

最初の頃は飛行機を見ると、日本に行くのが何回も思った。1人ちこーして振り回されていい思い出した。





楽しかった事は、フランスには、16日間のバカンスがら回ある。  
 その時は、いろいろなお所に観光旅行に連れて行ってもらった。



エッフェル塔



ディズニーランド



モントサンミヤシエル



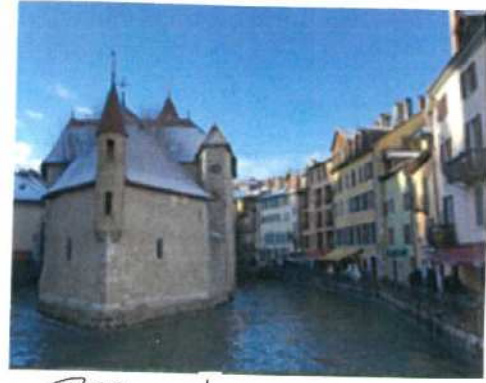
ランベール小塔



凱旋門



アイス cream



アラス



ルーブル美術館



イタリア



ラス



マルセイユ



ベルギー ブリュッセル



ローザンヌの  
オセロ博物館



マサシーのスキー



ボルネーの水鏡

世界遺産や大自然には、とても感激しました。





↑ハロウィン

アマシーの仮装 →



③

イベントとしては、ラスターとハロウィンの仮装をしたり、アマシーの仮装パレードを見に行ったりして楽しんだ。変化の多い日々だったよ。

日本に帰ってきてからは、日本のフランス大使館に招待されて、ワールドカップを大使館で観戦し、フランスが優勝した時には我が国のことの様に嬉しかった。まさに私の第二のふるさとです。

このことから留学は本当に意味があることだと思ふ。

辛いことはあるって覚悟しないといけないけど、今まで振り返ってみて、こんな勉強で戸惑って大変で楽しくって感動して凝縮された一年はなかった。知らない事一杯あった。

今は留学を通して世界中に友達がいる気が強くなれりし。色々な人々に会って違う文化や習慣があることを知り、異なる視点や価値感を受け入れ日本にいた時に持っていた価値感がどんどん変化していった。

これから、公平で平和な世界を實現する下にはも世界から見た日本を知ることも大切である。

この留学を助けてくれた下村先生はじめ関係者の皆さん本当にありがとうございました。

そして、この体験をした私がどの様に恩返しできるのか、日本と世界の国々の架け橋になれるのを考へていついつ実行していったらと思います。



フランス派遣の世界中のAFS 64期生



自分の思った事、感じた事をSNSにのせてた。



ホストファミリーにお礼の100羽の鶴を折ってプレゼントした。「メルシーボックス」